



やまなし

2016.1.15
vol.13

特別号



contents

- 2 | 大村先生の研究と芸術への熱き想い
- 3 | 受賞記念特別展
- 4 | 学生からのメッセージ

大村 智 先生
ノーベル医学・生理学賞受賞記念特別展 特集

The Yamanashi
 Bulletin of the University of Yamanashi Library



大村先生の研究と芸術への熱き想い

タケウチ サトシ
附属図書館長 竹内 智

2015年のノーベル賞医学・生理学賞は、本学を卒業された大村智先生（北里大学特別栄誉教授）に授賞された。授賞の理由は「寄生虫病に対する新しい治療法の発見」であり、大村先生が長年にわたって研究してきた微生物の有機化合物生産能を人類の福祉と健康に役立てることへの貢献が認められたもの。家畜の寄生虫駆除薬「イベルメクチン」と、アフリカをはじめとする熱帯地域で発生する感染症のオンコセルカ症（河川盲目症）に苦しむ数億人の人々を救ったといわれる特効薬「メクチザン」は、土壌微生物から抽出された画期的な創薬として世界保健機構（WHO）でも認知されている。今回の受賞に際して、大村先生は「微生物にも感謝しなくては」との思いを抱いているとのこと。ノーベル賞受賞までの大村先生の歩みをたどってみる。

大村先生は1935年に豊かな自然に囲まれた北巨摩郡神山村（現韮崎市）の農家の長男として生まれた。韮崎高校から本学学芸学部自然科学科（現教育人間科学部）に入学し、卒業研究では油脂成分の微量分析を行っている（卒業論文が教育人間科学部に保管されていた）。卒業後、都立墨田工業高校定時制に教諭として着任し、働きながらも一生懸命に勉学に励む生徒達の姿をみて学び直すことを決意。昼は東京理科大学大学院で研究を行い、夜は高校で教鞭を執るという毎日に明け暮れ、修士課程を修了。その後、本学の発酵生産工学科（現生命工学科）の助手としてワインに関する研究に携わり、研究者への道を歩み出した。2年後北里研究所に転職、早朝から夜遅くまで研究を積み重ねて多くの研究成果を論文として発表、国内外から注目される存在になる。ほどなくアメリカのウェスレーン大学に留学、多くの研究者を通じて提携に

至ったメルク社との共同研究は、特許ロイヤリティを原資として研究を発展させる産学協同の手本として高く評価された。ここでの研究がノーベル賞受賞へと繋がっている。帰国後、北里大学の理事や所長等を歴任し、その間、日本学士院賞や紫綬褒章、藤原賞をはじめとして国内外において数多くの賞を授与されている。

大村先生の才能は研究だけではない。絵画や水墨画、書、陶芸など芸術にも造詣が深い。女子美術大学の理事長を務めたことから、女性芸術家への思い入れはとりわけ大きい。韮崎大村美術館には多くの女流画家の作品が大村コレクションとして収納されている。また、ヒーリング・アート（癒しの芸術）の先駆けとして美術館病院（北里研究所メディカルセンター病院）を設立するなど事業家としても人並みではない。高い創造性を求められることが科学者と芸術家に共通する力量とのこと。

本学附属図書館において、大村先生のノーベル賞受賞を記念した特別展示が実施されている。自筆の卒業論文に加え、当時の先端技術を垣間見ることのできる計測機器や販売されているイベルメクチン薬などが展示されている。地方国立大学から世界を目指した大村先生の研究への熱き想いととも、芸術に関する先生の著書も閲覧でき、一期一会を大切にされるお人柄を知る上でもまたとない機会となっている。ノーベル賞受賞までの歩みから大いなる刺激を受け、将来に向けた勉学と研究へ思いを新たにしたい学生達も多いのではと思われる。特別展示は2016年3月31日まで実施予定。多くのみなさんのご来館を期待したい。





受賞記念特別展 本館・医学分館



本館 展示風景



医学分館 展示風景

平成27年10月23日から平成28年3月31日まで、ノーベル医学・生理学賞受賞を記念した特別展を、附属図書館本館2階、および医学分館1階ロビーにて開催しています。大村先生が山梨大学学芸学部（現在の教育人間科学部）に在学中の卒業論文「油脂成分の微量分析」の原本（本館に展示、医学分館には複写展示）や大村先生が助手として在職中に指導した論文のほか、当時の実験器具や写真などを展示しています。

また、本館館内には、大村先生が山梨大学を訪れた際の映像視聴コーナーや大村先生の論文閲覧コーナーがあり、関連した図書の貸出も行っています。



卒業論文



大村先生 特別展来場
(平成27年10月26日)



至誠惻怛 【シセイソクダツ】



大村先生が学生に贈りたい言葉の一つ。「まごころを持って、自愛の心を持ってやりなさい。そうすると必ずうまくいきますよ。」と本学特別栄誉博士称号授与式において説明されました。先生の自筆の色紙が会場に展示してあります。

憧憬



大学院医学工学総合教育部
生命工学専攻1年

イコマ コウダイ
生駒 航大

大村智先生、ノーベル医学・生理学賞受賞おめでとうございます。

私が大村先生を知ったのは学部3年生の時でした。年間2億人もの命を救い、次期ノーベル賞候補と言われていた偉大な化学者の講演会に参加した時です。オンコセルカ症という発展途上国で失明の主要な原因となっている感染症に効く薬を開発し、無償配布することにより、多くの未来ある人々の命を救った話を聞いて心底感動したことを今でも覚えています。私も大村先生のように多くの人を救いたいと思い、大村先生が研究されていた放線菌の道に進むことを決めました。大村先生は研究だけでなく芸術や文学にも長けており、様々な素晴らしい言葉を残しています。その中でも「世の中の人々の為に何が出来るかを優先し厭わず行動する」という言葉に感銘を受けました。この大村先生の言葉を心に留め、研究に一生懸命取り組みたいと思います。

人のためになることを



医学部
医学科4年

フルヤ サトシ
古谷 智

大村先生のノーベル医学・生理学賞受賞、誠にありがとうございます。

医学部にある図書館でも特別展示が行われており、大村先生の業績や研究内容の説明に加え、過去の写真や大村先生の卒業論文の一部写しなど、なかなか見ることが出来ない展示もあります。

展示をみて、菌からの化学物質スクリーニング、エバーメクチンをはじめ多くの有用な物質の発見、数億の命を救ったこと、改めて大村先生の偉大さを感じました。そして展示の最後に、オンコセルカ症がかつて蔓延していた地で大村先生と現地の子どもたちが一緒に写っている写真があります。大村先生が御来学なさったとき、「現地の子どもたちと会って、この子どもたちはもうオンコセルカ症で失明しない、そう思っていた良いことをしたと思った。」とおっしゃっていたことが印象に残っています。私たち学生も、これから人のためになることが出来るような人間になるよう、努力していきたいと思えます。



館報「やまなし」の由来：図書館報「やまなし」は山梨県、山梨大学の「山梨」と、樹木の「ヤマナシ」にかけています。図書館の西側に大きなヤマナシの木があり、今でもたくさん実をつけます。みんなが育てて喜ばれる図書館になるようにという願いがこめられています。

学外の方への利用案内

本館及び医学分館は、山梨大学以外の大学生をはじめ一般の方々も利用できます。詳細については、<http://lib.yamanashi.ac.jp/>をご覧ください。本館 Tel:055-220-8066（情報サービスグループ）、医学分館 Tel:055-273-9357（医学情報グループ）にお問い合わせください。



山梨大学附属図書館報
「やまなし」
第13巻 特別号
2016年1月15日 発行
編集：館報編集委員会
発行：山梨大学附属図書館
〒400-8510
甲府市武田四丁目4-37
TEL 055-220-8063

● 表紙：大村先生図書館来館風景
場所：本館2F常設展示室（山梨大学職員 撮影）